海域WG資料２

知床世界自然遺産地域多利用型統合的海域管理計画見直しの概要

◎ 見直しにあたって

【現行計画】 → 【次期計画】

１ はじめに

〈策定の背景〉

知床には…

- 季節流氷が到来する北半球の南限で、**流氷の影響を受けた豊かな海**がある。
- **海洋生態系と陸上生態系の相互作用が顕著**
- 多くの希少種など、多種多様な生物が生息
- **海洋生物と共存**する形で**安定的な漁業活動**が営まれてきた。

知床では現在…

- 代表的な生物に増減が認められる一方、流氷の量、接岸期間は減少
- 遺産登録を機に観光リクレーションの利用が増加

気候変動？

人間活動との両立は？

順応的管理による見直し

計画 → 実行 → モニタリング → 評価・モデリング → 既存のデータ・知見

○ 世界自然遺産登録を契機として、海洋生態系の保全と漁業などの人間活動による適正な利用との両立を将来に亘って維持していくため、海域管理計画を策定することとした。

〈目的〉

知床世界自然遺産地域内の海域における海洋生態系の保全と、持続的な水産資源利用による安定的な漁業の営みの両立

◎ 見直しにおけるポイント

【現行計画】 → 【次期計画】

海域管理計画の目的を堅持

２ 保護管理等の基本的な考え方

○ 基本方針

○ 生態系の概要と保護管理等の考え方

○ 各種構成要素の保護管理等の考え方

＊６つの構成要素
- 海洋環境と低次生産
- 沿岸環境の保全
- 魚介類
- 海棲哺乳類
- 海鳥、海ワシ類
- その他→ ・社会経済

◇海洋生態系を６つの構成要素に分類し、それぞれの構成要素毎に現状・課題・保護管理等を記述

◇魚介類、海棲哺乳類、海鳥、海ワシ類については、指標種を選定

強化する視点

- 流氷と海洋生態系の動向から地球温暖化を含む気候変動の兆候を監視
- 海洋・陸上生態系の相互作用について、栄養循環、ネットワーク機能から一層の注視
- 生態系サービスの地域社会にもたらす便益を把握するため社会経済的視点を強化

３ 保護管理措置

○ 海洋環境と低次生産

○ 沿岸環境の保全

○ 指標種

- サケ類　・スケトウダラ
- トド　・アザラシ類
- ケイマフリ　オオセグロカモメ　ウミウ　・オオワシ　オジロワシ

○ その他

次期計画
○ 社会経済

世界自然遺産登録基準を維持

＊ＩＵＣＮ評価基準[クライテリア]
- 生態系 → 季節海氷による特異な生態系
  → 海洋生態系と陸上生態系の相互作用が顕著
- 生物多様性 → 希少、重要種が多数生息・生育

４ 管理体制と運用

計画の推進管理＆計画期間